

メ＝同屬ノ *C. juncea* L. (Sunn hemp ノ原植物) ト共ニ栽培サレル。英名ハ *rattle-pod* ト言ヒ、Rock 氏ノ *The Leguminous plants of Hawaii* (1920) ニハ立派ナ寫眞ガ出テキル。

先日本郷通ノ古書肆デ偶然コノ植物ノ日本デ最古ト思ハレル圖ヲ發見シタ。ソレハ挿入寫眞ノ様ニ美濃版一枚摺ノ左ニ彩色圖、右ニ説明文ヲ載セタモノデ、山本亡羊先生門下ノ極一部ニ分配サレタモノト思ハレル。

文中ノ脂麻ハごま、眞豆ハささげ、合萌ハくさねむら意味シテキル。愆齋先生ノ草木圖說卷十三ノきばなはぎノ 1 項ニハ嘉永年間ニ舶來ト書イテアリ、白井光太郎先生モ渡來考デ同様ニ引用シテキラレルカラ、コノ圖モ輸入直後ノモノト思ハレル。山本亡羊先生ノ百品考(三編上)(永嘉 6 年)ノ文ト比較スルト、漢文ノ引用ハ短カク、和文ノ記相文ハ長ク詳シイ。コノ一枚摺ニヨルト種子ヲ播イテ實驗シテ見タコトガ判ル。本來ノ白蕪菜ト沙苑蒺藜トガ同一物デアルカドウカ又コレハ何物デアルカハ小生ノ様ナ初歩者ニハ判ラナイ。和語本草、本草綱目啓蒙、集解、救荒本草等ニ或ハ *Tribulus* ニ或ハ *Cassia* ニ當テ色々ト書イテアルガ、ムツカシイ。STUART, BRETSCHNEIDER 氏等ハ兩者ヲ *Tribulus* デアルトシテキル。イヅレニシテモ亡羊先生ノ様ニコレヲ *Crotalaria saltiana* ニ當テルコトハ形態上カラモ無理ガアリ、又原産地ノ同州沙苑ハコノ様ナ熱帶植物ノ生育ヲ許サナイト思ハレル。莢ヲ振ツテ音ガスルト言フノハ英名ト同ジコトデ、若シ偶然ノ一致トスレバ面白イコトデアル。本項ノタメニ久内清孝氏、木村雄四郎氏、佐々木一郎氏ヨリ文獻上種々ノ便宜ヲ得タ。記シテ謝意ヲ表シマス。

○*Shibatæa* (おかめざさ屬) ノ一新種 (前川文夫)

江西省ノ彭澤縣城ハ揚子江ニ面シタ小サナ町デアツテ四圍ニ山ヲ環ラジソコニハ城壁ガ山ヲ越エ谷ヲ渡ツテ續イテ居テ萬里ノ長城ノ雛型ノ様ナ景色デアル。コノ現今ノ町カラ遠ク郊外數里ノ地ニ古ヘノ彭澤ガアル。彼ノ陶淵明ガ縣知事ヲシテ居テ有名ナ歸去來ノ辭ヲ作ツテ故山ニカヘル前ニ居タ處ハ恐ラクソノ邊デアツタラウ。今ハサビシイ景物トシテ崩レカハツタ古塔ガ殘ツテ居テ、一層荒涼タルモノヲ感ジサセル。先年中支ノ前線ニアツタ時、コノ地ヲ通ツテおかめざさノ一種ヲ採ツタ。丈ガ餘リニモ低クテコノ屬トハ一寸受ケトレヌ位デアツタガ、根莖ノ構造ヤ獨特ノ葉ハ本屬デアルコトヲ示シテ居タ。本年春内地ニ歸還シテ、研究スル機ヲ得、新種ト判ツタノデ、當時隨行シテソノ際色々ト便宜ヲハカラレタ井本保郎中尉殿ニ感謝ノ意ヲ表シテソノ名ヲ附ケ **ゐもとざさ** (*Shibatæa pygmæa* F. MAEKAWA, n. sp.) ト命名スル。

Shibatæa pygmæa F. MAEKAWA, sp. nov.

Rhizoma gracile internodiis 15 mm longis 2-3 mm latis, nodis inflatis. Culmus gracilis debilis 7-16 cm altus subteres. Vaginæ culmorum scarioso-membranaceæ longitudine internodio superantes. Folia longe ovata vel ovato-oblonga vel ovato-elliptica supra medium ad apicem attenuata basi rotundata vel subauriculata atque ad petiolum subito contracta 6-9 cm longa 2-3 cm lata margine spinulosa supra

intense viridia subtus glaucina utrinque glaberrima, nervis 13-15, textu chartacea.

Haec species *Shibatea chinensis* affine, sed ex quo foliis amplioribus basi saepe subcordatis textu rigidioribus, culmis humilissimisque bene distinguenda.

Hab. China-mediana prov. Kiangsi, P'êng-chê, Nangwa-wan (彭澤縣南瓜灣)
(F. MAEKAWA no. 11M539-Dec. 1941—Typus in Herb. Univ. Imp. Tokyo.)

とうおかめざき (*S. chinensis* NAKAI) ハ浙江省東北部ト江蘇省ノ南部トニ分布シテ居ル。ソレニ較ベテ丈ハ極メテ低ク僅カニ高サ 20 cm ニ滿タズ、葉ハ一層剛ク且ツ潤ク基脚ハ淺心形ニサヘナルノデ區別出來ル。今一種安徽省ノ南部ニ分布スルモノガアツテコレハ REHDER 氏ガ Journ. Arnold Arboretum 8: 91 (1927) ニ記ストコロデハ高サ 2 m トアリ、御江久夫氏ガ本誌 14: 549 (1938) デ葉裏ニハ有毛ナル旨ヲ述ベテ居ラレル、安徽黃山ノ南麓ノ休寧縣カラ記載サレタ *Shibatea hispida* McCURE ナルハ多分コレデアラウガ今原記載ガ讀メナイノデ確言ハ出來ヌトシテモ本種デナイコトハ言ヘル。今回ノ產地ハ本屬トシテ分布ノ西限ニナルガ將來ハ湖北湖南邊リカラモ見出サレルカモ知レヌ。

終リニ色々御世話ニナツタ御江久夫氏ニ感謝スル。

○やまもゝとふともゝノ語源ニツイテノ新考 (前川文夫)

やまもも (*Myrica rubra* S. et Z.) ノ支那名ハ楊梅デアル。コノ漢字ガ日本ノ記録ニ現ハレタ最初*ハ出雲風土記ノ意宇郡ト大野郡ノ記事デ、コレハ元明天皇ノ御宇デアル。又少シ遅レテ、續日本紀卷 32、光仁天皇寶龜四年正月ノ條ニ「設齋於楊梅宮」同年三月ニハ「造作楊梅宮、至是宮成…是日天皇徒居楊梅宮…」猶ホ同年六月ニハ「楊梅宮南池生蓮一莖二花」等ノ記事が見出サレル。以上ハ楊梅ノ發音ニツイテハ記シテ居ナイガ、醍醐天皇ノ御宇ニ出タ本草和名ニハ也末毛毛 (但シ楊梅ノ文字ヲ記サヌ)、和名類聚抄卷九ニハ楊梅、夜末毛毛トアルノカラシテやまももト訓ダモノト背カレル。サテやまももノ語源ニハ大體三説アル。其一ハ新井白石ノ東雅カラ系統ヲ引ク山もも説で、やまハ栽培品デナイ、山地生ノ意、もゝハ丸イ果實ノ意デアル。同書ニハ「其形の桃に似たるにもあらずしかるをモモをもて呼ぶ事は凡果のその肉核をつゝみて核の中仁あるものを皆モモといひし也」ト述ベテ居ル。寺島良安ノ和漢三才圖繪モコレト大同小異デアル。牧野富太郎先生モ日本植物圖鑑 (昭和 15 年) 669 頁ニコノ説ヲ採ツテ居ラレル。第二ハ屋代弘賢ノ古今要覽稿ニ出タ山桃説デアル。即チ同書 337 卷ニ「山中に自ら生じて味も苦みありて山生の桃に似たればしかよべり」トアル様ニソノ味が似テ居ル事カラ來タトスルノデアル。第三ハ山百首説デ、東雅ニハ古説トシテ「其樹山谷の間に生じて實又繁をもてかくいひしとみえたり」トスルモノノ系統デ、近クハ田村利親氏ガ本誌 1 卷 (298) 頁 (大正 7 年) ニ百々ハモト訓ジ果實ガ多ク房ヲナシテ密集スル狀ヲ云フトシテ居ルノモコレト同ジ考察デアル。以上ヲ通ジテ見ルトやまニツイテハ皆山地生ノ意トシテ居テ共通デアルガ、自分ハコレヲ楊梅ノ支那音ノ轉訛ト考ヘタイノデアル。一體やまももハ上記ノ

* 上村六郎：やまもも考 (本草第 11 號 昭和 4 年)。